

配点および採点基準（模範解答）

問 1

（１）10点

定義通りであるかどうか

（２）15点

手持ちのリソースの制約を踏まえつつ、ネットワークを広げ、ビジネスパートナー（他社）との関係を構築し、クラフトワークのように次から次へとプロジェクトを生み出していく。損失ラインを設定した上で、リスクある事業にも乗り出し積極的な投資を行う、不利な状況をビジネス機会に転換していくなどの発想力が求められる。想定外の事態も生じ得るが臨機応変に対処するアントレプレナーとしてのマインドセットが必要になる。

問 2

（１）10点

定義通りであるかどうか

（２）15点

知識が組織内でどのように偏在しているか把握できていることで、個々の課題に即応して互いの知識のスムーズな引き出しや有機的な連結が可能になる。人間の記憶領域のように情報がしかるべき場所に蓄積され、必要に応じて随時交換されることで、イノベーションが起きやすくなり、結果として組織の業績が向上すると考えられる。各人の保有する知識や情報への信頼が向上することで、質の高い協業も可能となる。

経営学分野において近年注目される理論コンセプトを取り上げ、かつ応用できるかどうかを問う、全体的にやや難度の高い設問としています。